

製品名: TBK1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21329**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:84kD;Observed MW:84kD

抗原情報

遺伝子名	TBK1
別名	TBK1;NAK;Serine/threonine-protein kinase TBK1;NF-kappa-B-activating kinase;T2K;TANK-binding kinase 1
遺伝子 ID	29110
SwissProt ID	Q9UHD2
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

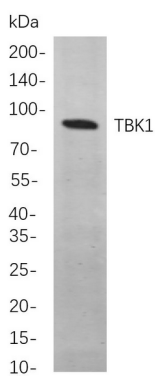
背景

細胞局在: 細胞質。NF- κ B (NFKB) タンパク質複合体は、I- κ B (IKB) タンパク質によって阻害され、IKB はNFKB を細胞質に捕捉することで不活性化する。IKB タンパク質上のセリン残基は IKB キナーゼによってリン酸化され、ユビキチン化経路を介して破壊され、NFKB 複合体の活性化と核への移行を可能にする。この遺伝子によってコードされるタンパク質は IKB キナーゼに類似しており、特定の増殖因子に応答して NFKB の活性化を媒介することができる。[RefSeq 提供、2010年10月]

研究分野

-

画像データ



TBK1 ウサギ mAb を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。